

第 161 回日本医師会臨時代議員会



常任理事 玉城 研太郎



第 161 回日本医師会臨時代議員会 次第

日時：令和 8 年 3 月 29 日（日）午前 9 時 30 分
場所：日本医師会館
東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 16 号

- 1. 開 会
- 1. 会長挨拶
- 1. 報 告
令和 8 年度日本医師会事業計画及び予算の件
- 1. 閉 会

今回の代議員会において、大変僣越ながら代表質問の機会を頂戴いたしました。

沖縄県医師会は、全国の医師会の中でも比較的「攻めの姿勢」と言われることの多い、いわゆるイケイケのプロジェクトを数多く展開しております。その中でも今回は、沖縄県医師会が

誇る広報活動の在り方について、日本医師会に質問をさせていただきました。

荘厳な議場という、やや緊張感のある空気の中ではございましたが、大変ありがたいことに、会場から思いがけず笑いもいただくことができました。厳粛な場において「笑い」を取るといふ、少々欲張りな目標もささやかに達成できたのではないかと、個人的には大変満足しております。

以下に、当日お話しさせていただいた内容の概要をご紹介します。

「皆様、こんにちは。沖縄県の玉城でございます。本日は広報につきまして、沖縄県医師会の先進事例を交えて質問をさせていただきます。日本医師会が国民の皆様へ向けて日々発信されている情報は、医療政策、感染症対策、地域医療体制、医療現場の現状など、いずれも社会にとって極めて重要なものばかりであり、その継

続的な取り組みに対し深い敬意を表するものでございます。一方で、これらの貴重な情報が必ずしも十分に国民の皆様へ届いているとは言い難く、また一部の情報が文脈から切り取られることで、誤解や不信を生んでしまう場面も少なくありません。本来、医療と国民をつなぐ情報発信には、「正確であること」に加え、「伝わること」、さらには「心に届くこと」が求められると考えます。現在、私たち医療側に求められているのは、一方通行の広報ではなく、国民の声に真摯に耳を傾け、何を期待し、何に不安を感じているのかという“ニーズ”を起点とした双方向型のコミュニケーションであると認識しております。

沖縄県医師会では、こうした課題意識のもと、ささやかながらも先進的な広報活動に取り組んでおります。例えば、沖縄県を代表するお笑い集団「FEC オフィス」と連携し、お笑いという親しみやすい文化を通じて特定健診の受診勧奨などを行っております。医療とお笑い、一見遠い存在のようでいて、実際には非常に相性が良いと感じております（少なくとも会場の反応を見る限りではございますが）。

また、「沖縄県医師会とはどのような組織なのか」「身近で相談できる存在である」というメッセージを、SNS等を通じて発信しております。これは単なるイベント広報ではなく、「組織の人格」を伝える試みであり、医師会そのものを県民生活の中に自然に溶け込ませることを目指した取り組みでございます。

さらに、田名会長の強いリーダーシップのもと、沖縄ファミリーマートおよび沖縄県栄養士会と連携した「おむすびプロジェクト」も進行しております。5月にはおむすびが店頭に並ぶ予定であり、医療界としては非常に珍しい形での“顔の見える広報”となることを楽しみにしております。

毎年開催されている「うりずんフェスタ」では、沖縄県医師会そのものがフェスティバル会場となり、多くの県民の皆様にご来場いただいております。沖縄アクターズスクールによるパフォーマンスや、子どもたちに大人気のバネ

人間、40店舗を超えるキッチンカーの賑わい、さらには医療・歯科・栄養に関する多彩なブース展開など、まさに“体験する医療”の場となっております。中でも「お笑いかかりつけ医」と題した舞台では、お笑い芸人と田名会長が共演し、かかりつけ医の重要性をわかりやすく、温かく伝えております。ここでは医療は“説明されるもの”ではなく、“体験し、感じるもの”として存在しております。そして今回は松本吉郎日本医師会長にもわざわざ沖縄県までお越しいただき、まさか松本会長がお笑い芸人に交じってあんなにはじけるとは夢にも思いませんでした。きっと来年もまたお笑いの舞台に立っていただけると期待をしております！

こうした取り組みは、単に情報の到達率を高めるだけでなく、「医療は身近で相談できるものだ」という信頼と親近感の醸成につながっていると感じております。今後、日本医師会の広報においても、正確性や専門性に加え、あらゆる世代に届く“翻訳力”と“共感力”を備えた発信が一層重要になるものと考えます。医師会が国民の生活の中に自然に入り込み、「遠い存在」ではなく「身近で信頼できる存在」として認識されることが、医療への理解と信頼の基盤となるのではないのでしょうか。

以上を踏まえ、国民の皆様に寄り添った今後の広報の在り方について、日本医師会のお考えをお聞かせいただければ幸いです。」

以上が当日の発言の概要でございます。今回の代議員会を通じて、改めて「医療は伝え方によって社会との距離が大きく変わる」ということを実感いたしました。

今後も沖縄県医師会として、時に真面目に、時に少し笑いも交えながら、県民の皆様寄り添う情報発信を続けてまいりたいと考えております。

※報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。
<https://www.okinawa.med.or.jp/medical/kaihou/houkoku/202303-2/>

